

教科名 **国 語** 科目名 **現 代 の 国 語** **必修**

科 別 **商 業** 科 学年 **1** 年 **2** 単位

教科書（発行所） **現代の国語(大修館書店)**

副教材（発行所） **力をつける現代文ステップ1、常用漢字クリア(尚文出版)、小論文チャレンジノートVol1・2(第一学習社)**

学 習 目 標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。
観 点	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにしている。
別 評 価	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 明日をひらく 「白紙」 「伝える、伝え合う」	<ul style="list-style-type: none"> 言葉やコミュニケーションの基礎を知り、学びに向かう姿勢をつくる。 相手や目的に応じた語句や文体の使い方を身につける。 	年間通して適宜小テストや課題を行う。
	5	2 要点をつかむ「水の東西」(読む)	<ul style="list-style-type: none"> 叙述を的確にとらえ、具体と抽象を理解する。 文章の要点をまとめる。 	
		3 的確に伝える 「伝わるように話す」(話す・聞く) 「わかりやすく書く」(書く)	<ul style="list-style-type: none"> 話し言葉の特徴を知り、聞き手が理解しやすい説明の仕方を考える。 相手に正確に伝わる書き方を身につける。 	
	6	4 意見を示す 「発想を広げる」(話す・聞く) 「意見を書く」(書く)	<ul style="list-style-type: none"> 他者と意見を交流し、アイデアを出し合い整理する。 構成や展開を意識して文章を書く。 根拠を明確にして、自分の意見を書く。 	
7	5 論理をとらえる 「動的平衡としての生物多様性」(読む)	<ul style="list-style-type: none"> 主張と根拠、理由づけの関係をとらえる。 演繹、帰納に着目し、文章の論理をとらえる。 	夏季課題学習	
第 2 学 期	9	6 魅力的に伝える 「工夫して話す」(話す・聞く) 「魅力的な紹介文を書く」(書く)	<ul style="list-style-type: none"> 相手の興味を惹くように、構成や展開の工夫を学ぶ。声の強弱や話す速度などを意識する。 さまざまな表現上の工夫を知り、読み手が共感できるような文章を学ぶ。 	夏季課題提出
	10	7 資料を駆使する 『「安くておいしい国」の限界』(読む) 「統計資料をもとに意見を書く」(書く)	<ul style="list-style-type: none"> 資料と文章の関係に注意して情報を読み取る。 統計資料を正確に読み取り、情報を組み合わせたり比較したりして、自分の主張を書く。 	
		8 他者と交流する 「目的に沿った質問をする」(話す・聞く) 「状況に応じた通信文を書く」(書く)	<ul style="list-style-type: none"> 質問の目的を明確にし、知りたいことへの理解を深める。 通信文の基本的なルールを知る。 相手や場面に応じた通信文を書く。 	
	12	9 情報を比較する 『「美しさの発見」について』(読む)	<ul style="list-style-type: none"> 複数の文章を比較し、共通点や相違点をとらえる。 	冬季課題学習
第 3 学 期	1	10 他者を動かす 「説得力のある資料をつくる」(書く) 「資料を用いて発表する」(話す・聞く)	<ul style="list-style-type: none"> 提案を検討する際に必要な要素を押さえる。 効果的な表現や資料の提示の工夫を学ぶ。 資料に基づいて、聞き手の心を動かす話し方を工夫しながら発表する。 	冬季課題提出
	2	11 主張を吟味する 「贅沢を取り戻す」(読む) 「文章を読み取って主張を書く」 「討論をする」(話す・聞く)	<ul style="list-style-type: none"> 文章中の根拠や引用に注目し、その妥当性や信頼性を吟味する。 他者の主張をふまえて、自分の考えを書く。 司会者、参加者それぞれの役割を理解するとともに、論理展開や表現を意識しながら自分の意見を述べ、相手の話を評価する。 	
		12 考えを発信する 「白」(読む) 「結論を出すために話し合う」(話す・聞く) 「レポートを書く」(書く)	<ul style="list-style-type: none"> 目的に即して必要な情報を読み取る。 異なる意見を持つ人同士が話し合い、結論の出し方を学ぶ。 適切な情報を集め、問いを立てる。 調べたことを根拠として、問いを解決するレポートを書く。 	春季課題学習

教科名 **国 語** 科目名 **言 語 文 化** **必 修**

科 別 **商 業** 科 学 年 **1** 年 **2** 単位

教 科 書 (発 行 所) **言語文化(大修館書店)**

副 教 材 (発 行 所) **基礎から学ぶ解析古典文法(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法演習ノート(桐原書店)、読んで見て覚える重要古文単語315(桐原書店)**

学 習 目 標	言語文化に対する理解を深めつつ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高めながら自分の思いや考えを深めたり広げたりするとともに、読書に親しみ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
観 点	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができるようにしている。
別 評 価	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにしている。
主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。 ※進捗状況やコースによって学習内容を変更する可能性があります。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1 言語文化への視点 「世界を見わたす窓」 2 言葉の紡ぐ世界 「羅生門」	・言語と文化の関係について、筆者の考えを読み取る。 ・場面ごとの人物の心情変化を読み取る。	
	5	3 伝統と発展 「実体の美と状況の美」 「短歌 十二首」 「俳句 十五句」	・美についての筆者の考えを読み取る。 ・短歌や俳句に親しみ、表現の特徴を理解する。 ・作品にうたわれている情景や心情を読み味わう。	中間考査
	6	4 表現の多様性「夢十夜」 5 日本と世界 「外国語の不思議 日本語の不思議」 6 文学と人生「城の崎にて」	・作品の表現に着目しながら読み味わう。 ・日本語と外国語の特徴を捉え、日本語を相対化し見つけ直す視点を養う。 ・主人公の心情変化を、動物や自然との関わりから読み取る。	
	7	探究「災害の記録」	・異なる時代に書かれた記録文を読み、災害が人々に及ぼした影響について考える。	期末考査 夏季課題学習
第 2 学 期	9	1 古文に親しむ 「宇治拾遺物語」 2 自然へのまなざし 「徒然草」「枕草子」	・古文の仮名遣いや、特有の言い回しに慣れる。物語の展開を捉える。 ・自然の情景に対する作者の感覚を捉える。	夏季課題提出
	10	3 想いを表す言葉(一) 「恋するころ」 「四季の移ろい」 「旅と別れ」	・和歌の印象的な部分について考える。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・自分の感じたことを言葉にする。	中間考査
	11	4 人との交わり 「伊勢物語」 「源氏物語への招待」	・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・和歌の修辞を学ぶ。 ・『源氏物語』の概要を知り、他の作品に与えた影響について考える。	
	12	5 語り継がれる歴史 「平家物語」	・特徴的な文体のリズムを味わう。 ・物語の内容を理解し、読み味わう。 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているか読み取る。	期末考査 冬季課題学習
第 3 学 期	1	6 旅と人生 「土佐日記」「更級日記」 1 漢文に親しむ 「私たちと漢文」「論語」	・旅に出るまでのならわしや、旅立ちに際しての思いを読み取る。 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。 ・漢文に親しむ。	冬季課題提出
	2	2 現代に生きる言葉 「蛇足」「完璧」 3 想いを表す言葉(二) 漢詩	・漢文訓読のきまりを知り、この話から生まれた言葉への理解を深める。 ・漢詩の形式や詩の特徴を理解し、読み味わいながら表現の工夫を読み取る。	
	3	4 文学と社会 「雑説」	・論理の展開を読み取る。 ・作者の主張を読み取る。	学年末考査 春季課題学習

教科名 **地歴公民** 科目名 **地理総合** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **1** 年 **2** 単位

教科書(発行所) **地理総合(東京書籍)**

副教材(発行所) **地理総合ワークノート(東京書籍)**

学習目標	必修科目として、高等学校の地理をこの科目だけで終える生徒および引き続き地理探究を履修する生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の地理的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知識・技能 地理的諸事象について、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能などを各学期の定期考査、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現 地理的事象の意味や意義、特色や関連性を、位置や分布、人間と自然環境との相互依存関係や地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、表現したりすることができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて主体的に追究し、地理的事象を多面的・多角的に考察や深い理解に基づき判断しようとし、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組み、ノートや課題等で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第1編 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 私たちが暮らす世界 第2章 地図や地理情報システムの役割	緯度・経度、地球儀と世界地図、日本の位置と領域 [発展]適切な地図を選ぼう 地図種類、地形図ルール、主題図種類と読取、地理情報システムと地図 [発展]地形図を読み取ろう、WebGISを使ってみよう	【GW探究課題】
	5	第3章 資料から読み取る現代世界	交通の発達、情報通信の発達、国境を超える人々の移動、拡大する貿易、つながる世界・多極化する世界 [発展]グラフを読み取ろう、統計地図を読み取ろう、階級区分図を作ろう	中間考査
	6	第2編 国際理解と国際協力 第1章 人々の生活文化と多様な地球的環境 1節 生活文化の多様性と国際理解 2節 生活文化と自然環境①地形	文化の地域性と多様性、宗教と人々の暮らし、山地の暮らし、平野の暮らし、海岸の暮らし	
第1学期	7	3節 生活文化と自然環境②気候	多様な気候とその分布、熱帯の人々の暮らし、乾燥帯の人々の暮らし、温帯の人々の暮らし、亜寒帯・寒帯の人々の暮らし [発展]雨温図を読み取ろう	期末考査
	9	4節 生活文化と産業	食生活と農業の分布、工業立地の変化、商業立地と人々の生活、情報産業の発達と生活文化の変化	【夏季探究課題】提出
第2学期	10	第2章 様々な地球的課題と国際協力 1節 地球環境問題 2節 資源・エネルギー問題	地球環境問題(1)、地球環境問題(2)、資源・エネルギーの偏在、化石燃料から再生可能エネルギーへ	中間考査
	11	3節 人口問題 4節 食料問題 5節 居住・都市問題	発展途上国の人口問題、先進国の人口問題、食糧需給をめぐる問題、発展途上国の居住・都市問題、先進国の居住・都市問題 [発展]人口ピラミッドを読み取ろう	
	12	6節 民族問題 7節 持続可能な社会の実現をめざして	民族問題・難民問題、地球的課題と国際協力 [発展]民族問題、持続可能な社会	期末考査
第3学期	1	第3編 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境の特色	日本の地形の特色、日本の気候の特色	【冬季探究課題】提出
	2	2節 様々な自然災害と防災	地震災害・津波災害(1)、地震災害・津波災害(2)、火山の災害とめぐみ、気象災害(1)寒さ・暑さと台風、気象災害(2)大雨と洪水・土砂災害、都市と自然災害、防災・減災と復旧・復興 [発展]ハザードマップを読み取ろう	
	3	第2章 生活圏の調査と地域の展望	調査テーマの設定①、地域調査1(資料調査)、地域調査2(野外調査)、まとめと発表	学年末考査

教科名 **数 学** 科目名 **数 学 I** **必修**

科 別 **商 業** 科 学年 **1** 年 **2** 単位

教科書（発行所） **最新 数学 I (数研出版)**

副教材（発行所） **パラレルノート数学 I (数研出版)**

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	中学校の内容の確認 第1章 数と式 第1節 数と式	数の計算・文字式・方程式 多項式 多項式の加法・減法・乗法	準備課題提出 確認テスト
	5		展開の公式 式の展開の工夫	中間考査
	6		因数分解 色々な因数分解 [振り返り]展開・因数分解	
	7	第2節 実数	実数 [研究]循環小数を分数で表す 根号を含む式の計算	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3節 1次不等式	不等式 不等式の性質 1次不等式の解き方	
	10		連立不等式 不等式の利用 [振り返り]不等式	中間考査
	11	第2章 集合と命題	集合と部分集合 共通部分・和集合・補集合 命題と集合・証明 [研究] $\sqrt{2}$ が無理数であることの証明	
	12	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ	関数とグラフ 2次関数のグラフの平行移動	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1		2次関数の最大・最小 2次関数の決定 [振り返り]1次関数、2次関数のグラフ [研究]連立3元1次方程式の解き方	
	2	第2節 2次方程式と2次不等式	2次方程式 2次関数のグラフとx軸との共有点	学年末考査
	3		2次不等式 2次不等式の利用 [振り返り]2次方程式・2次不等式	

学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と人間生活とのかかわり、および科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、観察・実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。 ・科学技術の発展が、今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解させる。 ・身近な自然の事物・現象および日常生活や社会の中で利用されている科学技術を取り上げ、科学と人間生活とのかかわりについて認識を深めさせる。 	
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	現代の人間生活と科学技術の関連性についての知識を身につけ、これからの科学技術と人間生活のあり方について理解する。また、身近な事物・現象に関する観察、実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。(定期考査・小テスト・実験などにより評価)
	思 考 ・ 判 断 ・ 表 現	身近な事物・現象の中に問題を見出し、観察、実験、調査などを行って得た結果について、科学的に思考し、判断する。そこから導き出した自らの考えを的確に表現する。(定期考査・実験・レポートなどにより評価)
	主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	身近な事物・現象に関心や探究心をもち、科学的な視点・考察力を養うとともに、科学技術に対する関心を高める態度を身につける。(レポート・提出物・授業態度などにより評価)
留 意 事 項	単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第一章 物質の科学 第一節 材料とその利用 振り返りと基本事項 1.プラスチックの特徴	化学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につける。 ・わたしたちの身のまわりにあるプラスチックの特徴と、プラスチックの原料について学ぶ。	
	5	2.プラスチックの分類と用途(1) 3.プラスチックの分類と用途(2) 4.さまざまなプラスチック	・プラスチックの性質と用途について、科学的に思考する。 ・熱に対する性質を調べることによって、プラスチックを熱可塑性樹脂と熱硬化性樹脂に分類できることを理解する。 ・高吸水性樹脂、導電性樹脂、光透過性樹脂、生分解性プラスチックなどの新しいプラスチックの性質や用途について理解する。	中間考査
	6	5.金属と人間生活 6.金属とその製錬(1) 7.金属とその製錬(2)	・金属の利用の歴史から、金属結合とそれにもとづく金属の性質について学ぶ。 ・鉄について、その性質や製錬方法、利用法などについて理解する。 ・アルミニウムと銅について、その性質や製錬方法、利用法などを科学的に理解する。	
	7	8.金属のさびと合金 9.資源の再利用(1) 10.資源の再利用(2)	・金属のさびや合金について、性質や用途を理解する。 ・資源の再利用方法に関心を抱き、特にプラスチックがどのように再利用されているかを理解する。 ・金属とガラスの再利用を学び、再利用の必要性について科学的に認識する。	期末考査 レポート 資源の再利用について ノート提出
	9	第二章 生命の科学 第一節 ヒトの生命現象 振り返りと基本事項 1.タンパク質のはたらきと構造 2.遺伝子とDNA 3.タンパク質の合成 4.血糖濃度の調節 5.血糖濃度と糖尿病	・タンパク質の構造やはたらきについて、理解する。 ・遺伝子によって決められているヒトの形質に興味を抱き、DNAの構造や特徴、塩基配列が、タンパク質のアミノ酸配列に置き換えられるしくみについて学ぶ。 ・内部環境の維持の重要性について理解する。	
	10	6.病原体の排除(1) 7.病原体の排除(2)	・生体防御のうち、物理的・化学的な防御と、食作用のしくみについて学ぶ。 ・抗体産生による生体防御のしくみ、および二次応答を利用した予防接種のしくみ、さらにアレルギーについて理解し、知識を身につける。	実験 盲班の大きさの測定 DNAの抽出 中間考査
	11	第三章 熱や光の科学 第一節 熱の性質とその利用 振り返りと基本事項 1.温度と熱運動 2.熱容量と比熱(1) 3.熱容量と比熱(2) 4.熱の伝わり方	・セルシウス温度や絶対温度について理解し、熱運動についての知識を身につける。 ・熱平衡の現象と、物体の熱容量と比熱について、実験を通して科学的に理解する。 ・熱伝導、対流、熱放射などのしくみについて、実験などを通して理解する。また、水の状態変化と潜熱の概念について学ぶ。	実験 熱伝導
12	5.仕事や電流と熱の発生 6.エネルギーの移り変わり 7.エネルギー資源の有効活用	・仕事とエネルギーと関係、ジュール熱と電力の関係について、物理式を用いながら理解する。 ・さまざまなエネルギーの形態やエネルギー保存の法則について、理解する。 ・可逆変化と不可逆変化について理解し、熱機関、永久機関の学習を通して、熱はすべて仕事に変えられないことを科学的に学ぶ。 ・ハイブリッドカーの開発などの省エネルギーの試みや、太陽光や風力、地熱などの代替エネルギーの開発について、関心をもって知識を習得している。	期末考査 ノート提出	
第 3 学 期	1	第四章 地球や宇宙の科学 第一節 自然景観と自然災害 1.日本列島のなりたち 2.火山活動と地表の変化 3.火山災害と防災 4.地震活動と地表の変化 5.地震災害と防災	・身のまわりの景観、日本列島の特徴、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解する。 ・火山の噴火によって噴き出す噴出物、火山の噴火がおこる原因、火山の形とマグマの関連性、および日本の火山活動について、理解する。 ・火山の災害と防災について、火山の噴火によって直接およびされる被害や二次災害、火山噴火の予知と防災について学ぶ。 ・日本の地震に関心をもち、地震の発生のしくみや、日本列島の地震活動とプレートとの関連性について、科学的に学ぶ。 ・地震災害と防災について、地震が直接及ぼす被害や地震による二次災害、地震の予知と防災について、理解する。	
	2	6.水のはたらきと地表の変化(1) 7.水のはたらきと地表の変化(2) 8.気象災害と防災	・身近にある河川や湖沼、海に興味をもち、河川のはたらきや海水のはたらきによって形成された地形について、科学的に理解する。 ・気象災害と防災について関心をもち、豪雪、台風、集中豪雨、土砂災害など、日本列島で見られる気象災害の特徴とそれがおこるしくみについて、科学的に理解する。	レポート 自然災害を学んで
	3			期末考査 ノート提出

教科名

保健体育

科目名

体育(男子)

必修

科別

商業

科

学年

1年

3

単位

教科書(発行所)

新高等保健体育(大修館)

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかり行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	備 考
第 1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・新体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス safely 行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクワッド safely 行うことができる。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツの発祥と成立
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッドリフト safely 行うことができる。 ・安定したボール操作を身につける。 ・様々な部位を使って自分の思い通りにボールを操作できるようにする。 ・スポーツ文化の発展と現代社会
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレス、スクワッド、デッドリフトからなるbig3で自己の限界に挑戦する。 ・状況に応じたボール操作をできるようにする。 ・さまざまな状況でゴールに向かってシュートが打てるようにする。 ・オリンピック・パラリンピックと国際社会
第 2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上(投てき) 	<ul style="list-style-type: none"> ・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、メデシンボールを突き出して投げるができる。(グライド投法) ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上(走り高跳び) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・big3で自己の課題をとらえ、記録を伸ばすことができる。 ・リズムカルな助走、はさみ跳びやベリーロールで跳ぶことができる。 ・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・競技会を安全かつスムーズに運営することができる。 ・スポーツの経済効果とスポーツ産業
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・スポーツに求められる高潔さ
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・武道(剣道) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・正面素振り、早素振りを正しく行える。 ・剣道における礼法を理解し、実施することができる。 ・持続可能性からみたスポーツと環境
第 3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・持久走 	<ul style="list-style-type: none"> ・2キロ走を2週にわたって実施する。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とする。 ・完走後の達成感やリラクゼーション効果も体感させる。
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・武道(剣道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・防具を正しく、素早く着けることができる。 ・防具を正しく、素早く片づけることができる。 ・面打ち、胴打ちを用いて攻防を行うことができる。
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・武道(剣道) 	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りと自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・45秒刻みでの地稽古で相手の動きに応じて攻防を繰り返すことができる。

教科名

保健体育

科目名

体育（女子）

必修

科別

商業

科

学年

1年

3

単位

教科書（発行所）

新高等保健体育(大修館)

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。 	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・集団行動、自校体操、体づくり運動 ・新運動能力テスト 50M走、ハンドボール投げ、立幅跳び、反復横跳び 上体起こし、握力・持久走もしくはシャトルラン	<ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列、挨拶、列の増減など授業が安全かつ能率的におこなえるよう集団行動を身につける。 ・校独自の準備体操を体得する。 ・体の構造、運動の原則について理解できるようにする A:体の柔らかさ B:巧みな動き C:力強い動き D:持続する運動 ・現状の体力・運動能力を測定し、自己の結果を踏まえ体力向上に努める。 	
	5	・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・1スポーツの発祥と成立 2スポーツ文化の発展と現代社会 について理解する。 	
	6	・球技 【ホッケー】 A)スティックの扱い B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 C)基本技術を用いた複合練習 D)対人練習 E)ルールを知る F)ゲーム(戦術練習)	<ul style="list-style-type: none"> ・スティックを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。 	
第 2 学 期	9	・陸上競技 【走り高跳び】 A)はさみ跳び・ベリーロールの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・2種類の跳び方について、助走方法や空中姿勢、着地について正しく身につけることができる。 ・自己観察、他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。 	
	10	【投てき】 A)砲丸投げの技能の習得 B)記録計測・フォームの実技テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・砲丸投げの投げ方を正しく身につけることができる。 ・自己観察・他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・記録計測において、自己の力を最大限発揮するとともに安全に留意し、スムーズに運営できるよう主体的に取り組む。 	
	11	・体育理論 ・ダンス 【リズムダンス】	<ul style="list-style-type: none"> ・3オリンピック・パラリンピックと国際社会 4スポーツの経済効果とスポーツ産業 について理解する。 ・エアロビクスの基本ステップを覚える ・基礎ステップを大きな動作で表現することができる。 ・習得した基礎ステップをつなげて踊ることができる。 	
第 3 学 期	1	・持久走 ・体育理論	<ul style="list-style-type: none"> ・長距離走やインターバルトレーニングなどを取り入れ、心肺機能の向上、健康保持増進を図る。与えられた課題に前向きに取り組む、自己の能力を最大限に発揮することができる。 ・5スポーツに求められる高潔さ 6持続可能性からみたスポーツと環境 について理解する 	
	2	・ダンス 【創作ダンス】	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で緩急強弱のある動きや空間の使い方で変化をつけて、即興的に表現したり、簡単な作品にまとめることができる。 ・必須課題を取り入れた構成を他者やグループの仲間と共に考えることができる。 ・イメージを体現化できる、作品づくりに創意工夫を凝らすことができる、表現方法を考えられることができる。 ・グループの仲間と一体となって楽しみながら作品を発表することができる 	
	3			

教科名

芸 術

科目名

音 楽 I

必修選択

科 別

商 業

科

学 年

1 年

2

単 位

教科書（発行所）

音楽 I Tutti+ トウッティプラス（教育出版）

学 習 目 標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成し、心のゆとりと豊かな情操を養うことを目指す。	
観 点 別 評 価	知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。
	思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や関連性を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的・協働的に歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
留 意 事 項	・プリント保管用のファイルを用意すること。 ・観点別評価については、学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・中学校までの復習テスト・教科ガイダンス ・楽器学 ・歌唱 ・ボディーパーカッション	・中学校までの学習内容確認 年間計画、評価方法等について説明 ・オーケストラの楽器紹介 ・校歌を覚える。素直な発声を心掛ける ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする	
	5	・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・歌唱	・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・近代・現代音楽 ・反復記号 ・日本語の歌を取り上げ、曲想の理解と個性豊かな表現を目指す	映像による鑑賞
	6	・歌唱 ・実技テスト(歌唱) ・楽典 ・ミュージカルの世界	・日本人作曲家の紹介 ・暗譜で一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・音名(日本・イタリア・ドイツ)、調号 ・ミュージカルの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る	映像による鑑賞
	7	・楽典 ・1学期の復習、小テスト	・音符の計算 ・楽典の理解力を図る	
第 2 学 期	9	・楽典 ・歌唱(イタリア歌曲) ・歌唱(ドイツリート)	・リズム譜 ・イタリアカンツォーネについて解説。イタリア語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す ・ドイツリートについて解説。ドイツ語の発音に注意し、歌詞、曲想を生かした表現を目指す	
	10	・実技テスト(歌唱) ・鑑賞、音楽史 ・楽典 ・箏曲	・一人ずつ実施 音楽的な評価より、自己表現力を重視する ・ロマン派の音楽 ・関係調 ・箏と琴の基礎知識	映像による鑑賞
	11	・箏曲 ・実技テスト(箏曲) ・鑑賞、音楽史 ・楽典	・箏の練習(荒城の月)、楽譜の読み方、奏法を覚える ・一人ずつ伴奏に合わせて実施 ・中世、ルネサンス、バロック、古典派の音楽 ・音程	映像による鑑賞
	12	・バレエの世界 ・ボディーパーカッション ・2学期の復習、小テスト	・バレエの歴史を学ぶと共に主要な作品を鑑賞し、面白さを感じ取る ・音楽を形づくっている要素を知覚し、演奏法の特徴を生かした音楽表現を工夫しながら楽曲の練習をする ・楽典の理解力を図る	映像による鑑賞
第 3 学 期	1	・ボディーパーカッション ・実技テスト(ボディーパーカッション) ・鑑賞	・2学期からの継続 ・各ペアで楽曲に適したパフォーマンスを取り入れ発表する ・民族音楽(アフリカ・アジアの音楽)	映像による鑑賞
	2	・実技テスト(歌唱) ・創作	・自由曲。曲想を歌詞の内容とかがかわらせて、イメージを持って音楽を表現する 一人ずつ実施 ・二部形式の歌を作曲	作品提出
	3	・オペラの世界	・オペラの歴史を学ぶと共に一つの作品のハイライトを鑑賞し、面白さを感じ取る	

教科名 **芸術** 科目名 **書道 I** **必修選択**

科別 **商業** 科 学年 **1** 年 **2** 単位

教科書（発行所） **書道 I (教育出版)**

学習目標	書道の幅広い活動をとおして、書に関する見方・考え方はたらかせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。	
観 点 別 評 価	知識・技能	書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
留意事項	観点別評価については、学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	書の美を求めて 書の世界へようこそ 用具・用材—文房四宝— 姿勢・執筆 古典の学び方	書道の学習を始めるにあたり、書の特質や学習の全体像を把握します。 用具・用材について理解し、姿勢や執筆法・用筆法について知り、書道の学習における基本的な事項を理解します。	芸術科書道と国語科書写の関連を確認します。
	5	一 漢字の書の学習 書体の変遷 拓本と碑について	漢字の書の学習を進めるにあたり、書体の変遷や拓本についての理解を図ります。	世界史の学習に関連します。
	6	一 楷書の学習 1 ささまざまな楷書 2 唐の四大家	漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれます。 代表的な楷書古典を鑑賞し、それぞれの古典について、作者や時代背景などの知的理解を図ります。	各自の個性を生かすことのできる古典を選択して集中的に学習します。
	7	3 北魏の書 実技課題(做書作品制作) 小テスト	各古典を字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身に付けます。 各自の個性を生かすことのできる古典を選択して、做書作品を制作します。また、書道に関する基礎的な知識の確認テストを実施します。	
第 2 学 期	9	二 行書の学習 1 ささまざまな行書 2 王羲之と顔真卿の行書	さまざまな行書古典を鑑賞し、書風を直感的に捉えたいうえで、行書の特徴について理解します。	実用性と芸術性という行書の二つの側面を理解します。
	10	唐の太宗と蘭亭序 鑑賞ガイド 蘭亭序 鑑賞ガイド 祭姪稿 顔真卿の人と書	代表的な行書の古典について、字形の特徴と用筆・運筆との関わりから捉え、臨書活動をとおして、意図に基づいて表現するための基礎的な技能を身に付けます。	世界史の学習に関連します。
	11	3 日本の行書 実技課題(条幅作品制作) 小テスト	各自の個性を生かすことのできる古典を選択して、条幅の臨書作品を制作します。また、書道に関する基礎的な知識の確認テストを実施します。	
	12	二 仮名の書の学習 1 仮名の世界へようこそ	我が国独自の仮名の書の芸術的な味わいや雰囲気を感じ、その成立過程や仮名の種類、字源について理解していきます。 平仮名の単体、変体仮名、連綿の筆使いに慣れ、基本的な用筆法を習得します。	漢字の草書体から平仮名への発展は国語・日本史の学習に関連します。
第 3 学 期	1	2 蓬萊切の鑑賞と臨書 3 高野切第三種の鑑賞と臨書 4 三色紙の鑑賞と散らし書き	上代様の仮名の鑑賞をとおして、そのよさや美しさを感じ取り、書風を直感的に捉え、作品の価値やその根拠について考えます。また、臨書活動をとおして、筆使いに慣れ、基礎的な表現の技能を身に付けます。	仮名独自の美しさを感じます。
	2	三 漢字仮名交じりの書の学習 1 言葉を表現する 実技課題(漢字仮名交じり作品制作) 2 感動や思いを表現しよう	自らの感動や思い・感慨に応じて詩文を選定します。また、作品の表現形式を決めた上で、詩文を選定する場合があります。 意図に基づいて構想し、用具・用材、全体の構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考えて表現していきます。	1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組めます。
	3	3 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	表現の工夫にあたっては、名筆や現代の書の表現を参考として表現を深めていきます。他者との意見交換をとおして、表現を練り上げ作品を完成させていきます。	

教科名

外国語

科目名

英語コミュニケーション I

必修

科別

商業

科

学年

1年

4

単位

教科書(発行所)

All Aboard! English Communication I (東京書籍)

副教材(発行所)

総合英語FACTBOOK English Grammar Core New Edition / 総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook New Edition (桐原書店)

学習目標	4技能(聞く・読む・話す・書く)をバランスよく習得し、英語のコミュニケーション能力を養う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	各Lessonで学ぶ文法を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて相手とコミュニケーションできる技能を身につけているかを小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	各Lessonで書かれている文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、テーマについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合っているかを小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや課題状況で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。)観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	Lesson1 Breakfast around the World 過去形	世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。	準備課題提出
	5	Lesson2 Australia's Cute Quokkas 進行形	オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。	中間考査
	6	Lesson3 A Train Driver in Sanriku 助動詞	被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。	
	7	Lesson4 A Miracle Mirror to 不定詞	海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。	期末考査
第 2 学 期	9	Lesson5 Learning from the Sea 動名詞	高校のユニークな部活動を通して、今好きなことと将来の夢について考える。	夏季課題提出
	10	Lesson6 A Funny Picture from the Edo Period 受け身	江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。	中間考査
	11	Lesson7 A Diary of Hope 比較表現	アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。	
	12	Lesson8 A Door to a New Life 現在完了形	ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。	期末考査
第 3 学 期	1	Lesson9 Fighting Plastic Pollution 名詞を後ろから説明する分詞	プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。	冬季課題提出
	2	Lesson10 Pigs from across the Sea 関係代名詞	第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。	
	3	総復習	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う。	学年末考査

教科名 **商業** 科目名 **ビジネス基礎** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **1** 年 **3** 単位

教科書（発行所） **ビジネス基礎(東京法令)**

副教材（発行所） **商業経済検定模擬テスト(実教出版) 電卓計算直前模試(英光社)**

学習目標	必修科目として経済にまつわる基礎知識の習得を目指す。また、全国商業高等学校協会主催の商業経済検定3級の取得を目標とする。さらに全国経理教育協会主催電卓計算能力検定の3、4級の取得も行う。	
観点別評価	知識・技能	経済の基礎知識、電卓の基礎知識を理解し、授業内での小テストおよび、全国検定、校内検定で判断する。
	思考・判断・表現	身に着けた知識を活用し、効率よく課題解決に向けて姿勢や周囲への助言、説明などから評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自らの学習を振り返り、全国検定取得へ向け創意工夫を行いながら学習できるかどうか評価する。
留意事項	全国検定の日程および、授業の進捗度によって校内検定や評価の観点を変える。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	電卓の基礎学習	電卓の使い方	
	5	電卓の基礎学習②	乗算(掛け算)、除算(割り算)の仕方	小テスト
	6	電卓の基礎学習③	見取り、算複合算の仕方	小テスト
	7	電卓能力検定4級取得	全国経理教育協会主催 電卓能力検定試験4級の取得	電卓4級
第2学期	9	第1章 商業の学習とビジネス	ビジネス基礎の教科書及び商業経済検定テキストを用いた学習及び電卓3級の学習	
	10	第2章 ビジネスに対する心構え	ビジネス基礎の教科書及び商業経済検定テキストを用いた学習及び電卓3級の学習	
	11	第3章 経済と流通	ビジネス基礎の教科書及び商業経済検定テキストを用いた学習及び電卓3級の学習	電卓3級
	12	第4章 企業活動	ビジネス基礎の教科書及び商業経済検定テキストを用いた学習及び電卓3級の学習	
第3学期	1	第5章 身近な地域のビジネス		
	2	第6章 取引とビジネス計算		商業経済検定
	3	1年間のまとめ		

教科名 **商業科** 科目名 **簿記** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **1** 年 **5** 単位

教科書(発行所) **新簿記(実教出版)**

副教材(発行所) **最新段階式簿記検定問題集全商3級(実教出版)、全商簿記実務検定模擬問題集3級(実教出版)
全経簿記検定試験PAST3級(英光社)**

学習目標	(1)企業における取引の記録・計算・整理に関する知識と技術を習得させ、簿記の基本的な仕組みについて理解させるとともにビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。 (2)全国検定3級の取得を目指す。
観点別評価	<p>知識・技能 各單元ごとに小テストを実施。校内検定及び全国検定の取得状況で判断する。</p> <p>思考・判断・表現 一連の簿記の流れ(取引～決算まで)理解したうえで、校内検定及び全国検定に向けて課題(夏季・冬期)や宿題を実施することが出来たか。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 授業への出席状況及び授業中の取り組む姿勢・態度ではどうか。意欲的に学習し検定受験に取り組むことが出来たか。</p>
留意事項	校内検定の日程、範囲など詳細は後日、授業担当教員より連絡する。

学期	月	学習單元	学習内容	備考
第1学期	4	1. 簿記の基礎 2. 資産・負債・純資産と貸借対照表 3. 収益費用と損益計算書 4. 取引と勘定	<ul style="list-style-type: none"> 簿記の目的、種類など明らかにする。 簿記の5要素を理解させ、貸借対照表と損益計算書を作成する。 勘定記入のルールを身に付ける。 	
	5	5. 仕訳と転記 6. 仕訳帳と総勘定元帳 7. 試算表 8. 精算表	<ul style="list-style-type: none"> 取引を仕訳をし、総勘定元帳の作成する。 試算表の作成方法を身に付ける。 試算表から精算表の作成をする。 	
	6	9. 決算 10. 現金・預金の取引 11. 商品売買取引 12. 掛け取引	<ul style="list-style-type: none"> 決算とは何かを学び、一連の手続きを学習する。 現金預金を理解し、小口現金出納帳の作成を学ぶ。 3分法の取引を学習し、掛け取引及び返品取引について学ぶ。 	
	7	13. 手形の取引 14. その他の債権債務 15. 固定資産の取引	<ul style="list-style-type: none"> 手形の種類と仕訳の仕方について学ぶ。 固定資産とは何かについて学習し、取得と売却の取引を学ぶ。 	全経3級
第2学期	9	16. 個人企業の資本の取引 17. 販売費と一般管理費、税金の取引 18. 決算整理(その1)	<ul style="list-style-type: none"> 資本の引き出しと追加元入れについて学習する。 決算整理仕訳について学習する。 	
	10	19. 8桁精算表 20. 帳簿決算 ☆費用・収益の繰り延べと見越し	<ul style="list-style-type: none"> 8桁精算表の作成が出来るよう学習する。 	
	11	全経3級対策	<ul style="list-style-type: none"> PAST3級の問題集を用いて学習する。 	校内検定 全経3級
第3学期	12	全商3級対策	<ul style="list-style-type: none"> 全商3級模擬問題集を用いて学習する。 	
第3学期	1	全商3級対策	<ul style="list-style-type: none"> 全商3級模擬問題集を用いて学習する。 	校内検定 全商3級
	2	全経3級対策	<ul style="list-style-type: none"> PAST3級の問題集を用いて学習する。 	全経3級
	3	まとめと反省	<ul style="list-style-type: none"> 1年間のまとめをする。 	

教科名 **商業** 科目名 **情報処理** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **1** 年 **4** 単位

教科書（発行所） **情報処理 Prologue of Computer(実教出版)**

副教材（発行所） **全商情報処理検定模擬試験問題集3級(実教出版)**
全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集基礎から3級(実教出版)

学習目標	(1) 企業において情報を扱うことについて、情報の意義や役割について理解する。 (2) 情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得する。 (3) ビジネス文書の役割や構成について理解し、ビジネス文書を適切に作成する能力を身に付ける。
観点	情報についての基礎的な知識、WordやExcel等各ソフトウェアにおける基本的な技能等について理解できているか、校内検定、全国検定(全商情報処理検定3級、ビジネス文書実務検定3級)等で評価する。
別	身に付けた情報処理に関する知識や技能を効率よく活用し、校内、全国検定に取り組むことが出来たのか、校内検定、全国検定および確認テスト等で評価する。
評価	主体的に学習に取り組む態度 自ら積極的に校内、全国検定合格へ向けて取り組むことが出来たのか、学習への振り返りや課題等を通して評価する。
留意事項	校内検定の実施については、内容等、教科担当者から連絡する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン	情報の意義と役割 情報社会の価値とモラル 情報社会と法規 情報デザインの重要性、影響と効果	
	5	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用	ハードウェア、ソフトウェア 情報通信ネットワークの役割と構成 Webページの検索と活用	
	6	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 4節 情報セキュリティの確保 第3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計	セキュリティ管理の重要性 表計算ソフトの活用、統計の基礎 データの入力と計算式の設定	
	7	第3章 情報の集計と分析 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	基本的な関数(SUM,AVERAGE,MAX,MIN等) グラフの種類と概要 基本的なグラフの作成	全商ビジネス文書実務検定(速度部門3級)
第2学期	9	全商情報処理検定模擬試験問題集3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商情報処理検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	全商情報処理検定(3級)
	10	第4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成	ビジネス文書の役割と構成 ワープロの操作と入力方法 ワープロを利用した文書の作成 社外文書、社内文書	校内検定
	11	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集基礎から3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商ビジネス文書実務検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	全商ビジネス文書実務検定(3級)
	12	全商情報処理検定模擬試験問題集3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商情報処理検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	校内検定
第3学期	1	全商情報処理検定模擬試験問題集3級	模擬試験問題集の実技問題や模擬試験問題を中心に検定試験対策(全商情報処理検定3級) 筆記、実技ともに実践問題を通し、知識とスキルの習得を図る。	全商情報処理検定(3級9月未取得者)
	2	第3章 情報の集計と分析 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	基本的な関数(VLOOKUP、HLOOKUP等) 応用的なグラフの作成	
	3	1年間のまとめ	1年間で習った内容について確認し、次年度の上位級合格に向けて繋げていく。	

教科名 **国 語** 科目名 **文 学 国 語** **必修**

科 別 **商 業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所） **精選文学国語(明治書院)**

副教材（発行所） **常用漢字クリア 五訂版 漢字検定対応**

学 習 目 標	文学作品を読むことを通して深く共感・想像する力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高める。
観 点 別 評 価	知識・技能 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を知り、語彙を豊かにしている。 教科書の文章の種類や特徴について理解を深め、文体や表現技法を体系的に理解し使えている。
	思考・判断・表現 文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。 言語文化の特質について理解を深め、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしている。 書くこと・読むことを通して言語文化の特質について理解を深めている。
	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしていたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	① 小説入門 言葉によって(大江健三郎)	「言葉」と「文学」との関係や、「文学」を読むこと・書くことについて、どのようなイメージを持っているか、話し合う。 「言葉によって」できることは何か、筆者の考えをもとにまとめる。	準備課題提出
	5	山月記(中島敦)	典拠である中国唐代の小説『人虎伝』の書き下しや現代語訳と比較し、李徴の性格や虎になった理由を読み取る。	中間考査
	6	② 詩歌入門 秋の折(高村光太郎) 雪(三好達治) 汚れつつまつた悲しみに……(中原中也)	さまざまな詩に触れ、その歴史性や特徴、独特の効果を学ぶ。 詩的表現が持っている力や可能性について考える。 詩句の反復による効果を理解する。	
	7	文学の窓 誌的リズム-音数律に 単元の言語活動2 (詩らしさ)を探る	詩の反復による効果と、「書く」「読む」行為の関係性について探究することを通し、文体の特徴や効果について考察する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	③ 文学の境界を広げる 地球から来た男(星新一) 単元の言語活動 ささまざまなメディアに生息する (文学)を発見する	心理描写やリアリズム以外のさまざまな表現形式をもつ小説への理解を深め、多様な読みを発見する。 文学にはどのようなジャンルがあるか、特性や特徴を考える。 メディア化された文学作品を取り上げ、元の作品とメディア化とを比較する。	夏季課題提出
	10	④ 言葉の力 山東京伝(内田百閒)	近代日本文学の特徴ある作品を通して、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 「わかる」「わからない」とはということなのか、身近な話題を通して考える。	中間考査
	11	⑤ 伝統と革新 短歌の輪郭(小池光)	本歌取りや歌枕といった技法を学ぶとともに、たった31音の小さな詩の形が秘める表現力について読み味わう。	
	12	俳句十二首 文学の窓 『桐の花』の言葉(俵万智) 単元の言語活動 俳句を詠んでみる	近現代の俳句を鑑賞し、自分が読み取った句の情景を短い文章にまとめる。 俵万智の文章を参考に、特に心に残った短歌を一首選び、200字程度の鑑賞文を書く。 特徴的な表現技法を理解し、語感を磨く。 俳句の実作と相互批評に取り組む。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	⑥ 戦争と記憶 現場に来て初めてわかること	筆者が考える現地の困難さを伝える写真について、なぜそう考えるのか話し合う。	冬季課題提出
	2	空き缶(林京子)	原爆投下から三十年を経て本作が発表されたことには、どのようなメッセージが込められていると考えられるか、話し合う。 本作を読み継ぐことは、現代の社会において、どのような広がりを生むのか話し合う。	
	3	単元の言語活動 戦争という(出来事)を伝える	戦争という(出来事)を考え伝えていく際に有効な方法を実践する。	学年末考査 課題学習

教科名 **国 語** 科目名 **総 合 国 語** **必修**

科 別 **商 業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所）

副教材（発行所） 現代文読解 基礎ドリル（駿台文庫）、正しく読み・解くための力をつける現代文ステップ2・正しく読み・解くための力をつける古典ステップ1（数研出版）、小論文チャレンジノートVol.3・4（第一学習社）

学 習 目 標	文章の種類を踏まえて内容や構成などについての的確に捉えることができる読解力を育成し、作品への解釈、理解を通してものの見方、考え方を深め、自らの考えや意見を根拠とともに論理的に述べる力を育てる。
観 点	自分の思いや考えを多彩に表現するために必要な語句の量を増やし、常用漢字の読みや書きに慣れる。(1)ウ 古典作品を適切に理解し親しむために必要な文語や訓読きまり、古典特有の表現について理解する。(2)ウ
別 評 価	思考・判断・表現 書き手の主張や考えを叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。(1)ア 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方を考えるとともに、文章の表現の仕方を工夫する。(1)ウ 古典の作品や文章を、古典特有の表現や訓読に注意して的確に捉え、自らの知見と結びつけて考えを深める。(1)オ 主体的に学習に取り組む態度 書かれている文章から筆者の主張や考えを的確に読み取ろうとしている。様々な言語活動を通して自分の意見を根拠を添えて論理的に述べようとしている。古文の学習に興味を持ち、物語の展開や話の面白さについて理解しようとしている。
留 意 事 項	現代文読解基礎ドリル、読んで見て覚える重要古文単語315は通年で授業冒頭の演習として扱い、長期休暇中の課題にも用いるものとする。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	古典ステップ1 16漢文入門1、2、3、4 現代文ステップ2 1コケはなぜに美しい 大石善隆	・漢文における基本的な訓読のルールを理解し、正しく書き下し文に直せるようにする。 ・評論のテーマについて理解し、筆者の考えを読み取る。	準備課題提出 確認テスト
	5	古典ステップ1 3羅城門 今昔物語集	・作品を通して用言について復習する。古文作品において省略されてしまっている部分の主語や目的語を意識しながら正しく読み解く。1年次に学習した羅生門と比較し描写や展開の違いについて理解する。	中間考査
	6	古典ステップ1 20蒙求 現代文ステップ2 2多様性は人間だけのものか 福岡伸一	・否定の句法、頻出の語彙、置き字について理解する。作品を主語と登場人物を意識して読み解く。 ・環境がテーマの評論について重要語句とともに理解する。現在の環境や生物の状況に対して実生活の中でどう向き合っていくべきか考える。	
	7	小論文チャレンジノートvol3	・説得力のある小論文を書くために必要な構成や根拠の作り方を知る。本来自分が持っている意見と異なる立場を取り、反対の立場から意見を見直すことでより深い意見作りを目指す。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	古典ステップ1 6貴公子たちの求婚 現代文ステップ2 4社会の中で生きている 南野忠晴	・動詞の4種類の変格活用について復習する。助動詞を意味、活用、接続の3つの観点から学び、読解に生かす。この時代における「色好み」について理解し、他の作品への興味関心につなげる。・評論から筆者の主張を正しく読み取り、現代社会の問題をどう解決すべきか考えを深める。	夏季課題提出 確認テスト
	10	古典ステップ1 22世説新語 現代文ステップ2 11哲学の使い方 鷲田清一	・古典文法の知識を用いながら使役、受身の句法について理解する。・要点を押さえるためにキーワード、筆者の主張、対比関係、言い換え部分に線を引きながら読み進める。本文の内容を要約する。	中間考査
	11	古典ステップ1 4浦島太郎 御伽草子 9中納言の異名 今昔物語集	・浦島太郎がおとぎ話として確立した背景について理解する。頻出の古文単語、助動詞について理解し、読解に役立てられるようにする。・助動詞「る」「らる」の文法的意味について理解し文脈によって使い分ける。古典常識や官職についての知識を生かし、物語の展開を適切に捉える。	
	12	小論文チャレンジノートvol4	・「課題文型小論文」を中心に課題文の要約と読解力を養う。課題文から筆者の主張を読み取り、自らの考えを構成立てて論理的に述べる。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	古典ステップ1 10正暦五年のこと 栄花物語	・助動詞「す」「さす」「しむ」を中心として助動詞の働きと接続などについて理解を深める。登場人物の人物関係について整理して作品を読み取る。作品の描写の中で誰の行為で誰の発言なのか主語を明確にしながら、物語の展開を適切に捉える。	冬季課題提出 確認テスト
	2	現代文ステップ2 26価値の多様化と画一化 岸田秀	・段落構成を意識して、各段の役割と要点をまとめる。	
	3	小論文チャレンジノートvol4	・「課題文型小論文」を中心に課題文の要約と読解力を養う。課題文から筆者の主張を読み取り、自らの考えを構成立てて論理的に述べる。長期休暇中の課題に向けて小論文を作る上での構成や考えのまとめ方について理解を深める。	学年末考査 課題学習

教科名

地歴公民

科目名

公 共

必修

科 別

商業

科

学年

2

年

コース名

プログレス

コース

2

単位

教科書(発行所)

公共(東京書籍)

副教材(発行所)

公共ワークノート(東京書籍)

学習目標	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。また、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、公正に判断する力を身に付け、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
観 点 別 評 価	<p>知識・技能 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</p> <p>思考・判断・表現 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。</p>
留意事項	各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。また現代の諸課題を探究する際のレポートを学期に1回程度課し、評価のための資料とします。授業中の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容も評価のための資料となります。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1部「公共」のとり 第1章 公共的な空間をつくる私たち (1)現代社会に生きる青年 (2)社会的な関係のなかで生きる人間	(1)1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画 (2) 1 個人として尊重される人間 2 社会的な存在としての人間 3 伝統・文化のなかの人間	
	5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理 1 公共的な空間における協働とは 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開	中間考査 課題提出
	6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割	
	7		5 政治参加と選挙 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	期末考査
第 2 学 期	9	第2章 法の働きと私たち テーマ1 法や規範の意義と役割 テーマ2 市民生活と私法 テーマ3 国民の司法参加	1 法と社会規範の役割 2 法の成立と適用 1 市民生活と法 2 多様な契約 3 消費者の権利と責任 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の意義	夏季課題提出
	10	第3章 経済社会で生きる私たち テーマ1 現代の経済と市場 テーマ2 市場経済における金融の働き テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	1 私たちと経済 2 市場経済のしくみ 3 国民所得と経済成長 1 金融のしくみと働き 2 中央銀行の役割と金融環境の変化 1 財政の働き 2 財政の課題 3 社会保障の考え方 4 社会保障の課題とこれから	中間考査 課題提出
	11	第4章 私たちの職業生活 テーマ1 働くことの意義と職業選択 テーマ2 労働者の権利と雇用・労働問題	1 働くということ 2 多様な職業選択 1 労働者の権利 2 現代の雇用・労働問題	
	12	第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ1 国際社会のルールとしくみ	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割	期末考査
第 3 学 期	1	テーマ2 国際社会と平和主義 テーマ3 国際平和への課題	1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本 1 現代の紛争とその影響 2 平和な国際社会に向けて	冬季課題提出
	2	テーマ4 グローバル化する国際経済	1 貿易のしくみ 2 国際金融のしくみと動向 3 グローバル化と今日の国際経済 4 国際経済の諸課題	
	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	1 探究のイメージをつかもう 2 探究プロセス	期末考査

教科名 **数 学** 科目名 **数 学 I** **必修**

科 別 **商 業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所） **最新 数学 I (数研出版)**

副教材（発行所） **パラレルノート(数研出版)**

学 習 目 標	必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。	
観 点 別 評 価	知識・技能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第3章 2次関数 第2節 2次方程式と2次不等式	2次方程式(復習) 2次関数のグラフとx軸の共有点(復習) 2次不等式	準備課題提出 確認テスト
	5		2次不等式の利用 【振り返り】2次方程式、2次不等式	中間考査
	6	第4章 図形と計量 第1節 三角比	鋭角の三角比 三角比の利用 三角比の相互関係	
	7		三角比の拡張 三角比が与えられたときの角 【研究】 $\tan \theta = m$ を満たす θ 【振り返り】三角比	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2節 正弦定理・余弦定理	正弦定理 余弦定理	
	10		三角関数の面積 図形の計量 【発展】ヘロンの公式	中間考査
	11	第5章 データの分析	データの整理 データの代表値	
	12		データの散らばり データの相関	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1		相関係数 分割表 【研究】統計的探求プロセス	
	2		仮説検定の考え方 【振り返り】データの散らばり	学年末考査
	3		1年間の総復習	

教科名 **理 科** 科目名 **化 学 基 礎** **必 修**

科 別 **商 業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プ ロ グ レ ス** コース **2** 単位

教 科 書 (発 行 所) **化学基礎(東京書籍)**

副 教 材 (発 行 所)

学 習 目 標	日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。
観 点 別 評 価	知識・技能 知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考査、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現 習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考査の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度 知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項	単元別の小テストや実験、課題等の実施時期については、進捗の状況のみを教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学 期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 1節 物質の成分, 2節 物質の構成元素	物質の分類とその分離法について理解する 物質の基本的な成分について理解する	
	5	3節 物質の三態 2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 1節 原子の構造	物質の状態とその変化について理解する 原子の構造を学び、原子ごとの構造の違いを考える	中間考査
	6	2節 電子配置 3節 元素の周期表 2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	電子配置を理解し、電子配置の表し方を学ぶ 周期表がどう決まりで元素を並べているか理解する イオン結合とイオン結晶の性質を理解し、組成式について学ぶ	
	7	2節 分子と共有結合 3節 金属と金属結合 4節 化学結合と物質の分類	共有結合と、分子の表し方や形について学ぶ 金属結合と金属結晶の性質を理解する 化学結合の種類と物質の性質について分類し、考察する	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 1節 原子量・分子量・式量 2節 物質量	原子の質量の表し方の工夫について理解する 物質量を用いた数の表し方について理解する	夏季課題提出
	10	3節 溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 5節 化学反応の表す量的関係	溶液の濃度の表し方(2種類)について理解する 化学反応式やイオン反応式の表し方を学ぶ 化学反応式が表す量的関係について理解する	中間考査
	11	2章 酸と塩基 1節 酸と塩基 2節 水素イオン濃度とpH 3節 中和反応と塩	酸・塩基の定義と性質、その種類について理解する pHと水溶液の性質の関係について理解する 中和反応のしくみと塩の性質について理解する	
	12	4節 中和滴定	中和反応の量的関係と中和滴定について理解する	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	3章 酸化還元反応 1節 酸化と還元 2節 酸化剤と還元剤 3節 金属の酸化還元反応	電子に着目して酸化・還元を考え方を理解する 酸化剤や還元剤のはたらきや量的関係について理解する さまざまな金属の反応性について理解する	冬季課題提出
	2	4節 酸化還元反応の応用	電池や金属の製錬など酸化還元反応の利用について理解する	
	3			学年末考査

教科名 **保健体育** 科目名 **体育（男子）** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所） **新高等保健体育(大修館)**

副教材（発行所）

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知識・技能 知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現 身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度 自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかり行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・自重トレーニングやケトルベル等を用いてbig3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツにおける技術と戦術・戦略 	
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・新体力テスト ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・自重トレーニングやケトルベル等を用いてbig3の挙上重量を増やすために自己の課題に取り組む。 ・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・スポーツにおける技能と体力 	
	6	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・器械運動(マット) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイナミックストレッチや運動解剖的に正しいストレッチを通してしなやかな身体をつくることができる。 ・回転系、巧技系の基本的な技に加え、条件を変えた技、発展技に取り組む。 ・技術の上達過程と練習の考え方、効果的な動きのメカニズム 	
	7	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・器械運動(跳び箱) ・体育理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動に関連して、懸垂や倒立、壁倒立して腕立て伏せ等の巧みな身体操作と筋力を必要とするトレーニングを実施することができる。 ・切り返し系や回転系の基本的な技に加え、条件を変えた技、発展技に取り組む。 ・体カトレーニング、運動やスポーツでの危険予知と安全確保 	
第 2 学 期	9	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・剣道 	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りや自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・面打ち、胴打ちを刃筋正しく行うことができる。 ・返し胴、引き技を刃筋正しく行うことができる。 	
	10	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・剣道 	<ul style="list-style-type: none"> ・素振りや自重トレーニングを組み合わせ、筋力と心肺能力をバランスよく高めることができる。 ・審判法を理解し、有効打突を見極めることができる。 	
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチプレスの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらうことができるようにする。 	
	12	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・スクワットの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・パス&コントロール 動きながらボールを受け、動きながらパスをできるようにする。 	
第 3 学 期	1	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) ・持久走 	<ul style="list-style-type: none"> ・デッドリフトの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・ボールを持たない時の動きを考え、空間に走りこんでパスをもらう。 ・持久走やシャトルランなどを通して、持久力を身につける。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・球技(フットサル) 	<ul style="list-style-type: none"> ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。 ・ポジションと特性を理解し、作戦を考える。 ・ゲーム形式によるボール操作と空間に走りこむ動き。 	

教科名 **保健体育** 科目名 **体育(女子)** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書(発行所) **新高等保健体育(大修館)**

副教材(発行所)

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
別 評 価	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項	・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	● 集団行動・自校体操・体づくり運動	○集合・整列・挨拶・列の増減など授業が安全かつ能率的におこなえるよう集団行動を身につける。 ○本校独自の準備体操を体得する。 ○体の構造、運動の原則について理解できるようにする A:体の柔らかさ B:巧みな動き C:力強い動き D:持続する運動	
	5	● 新運動能力テスト 50M走・ハンドボール投げ・立幅跳び・反復横跳び 上体起こし・握力・持久走もしくはシャトルラン	○現状の体力・運動能力を測定し、自己の結果を踏まえ体力向上に努める。 ○1スポーツにおける技術と戦術・戦略 2スポーツにおける技能と体力 について理解する。	
	6	● 器械運動(跳び箱)	○安全な場づくりと用具の準備・管理が正しくできる。 ○主運動に発展する「補助運動」を率先して行うことができる。 ○仲間と補助し合いながら、「今できる技」「得意な技」を滑らかに安定して跳び越すことができる。 ○主運動に発展する「補助運動」を率先して行うことができる。	
	7	● 器械運動(跳び箱)	○安全な場づくりと用具の準備・管理が正しくできる。 ○「条件を変えた技」「発展技」に挑戦し、自己や仲間の課題を発見したり改善したりしながら取り組むことができる。 ○自己が選択した技を美しいフォームで滑らかに安定させて跳び越すことができる。	
第 2 学 期	9	● ダンス ● 体育理論	○現代的なリズムダンスの基礎を学び、音楽に合わせて体を巧みに使うことができる さまざまなステップを組み合わせ、体全身を使って表現し、楽しむことができる ○3技能の上達過程と練習の考え方 4効果的な動きのメカニズム について理解する	
	10	● ダンス	【グループ学習】 ○グループ作り、選曲・内容構成・発表までを各自で行う ○基礎ステップを取り入れ、個・群の動きに工夫をこらすことができる ○グループ学習において意見・考えを積極的に行うことができる 作品を完成させる	
	11	● 球技(バレーボール) ● キャッチボール ● アンダーハンドパス ● オーバーハンドパス ● 複合パス	○バレーボールの基本技術であるアンダーハンドパスとオーバーハンドパスの技術を身に付ける。また、キャッチボールを行いながら、全身のストレッチと、スパイク動作のミートも練習する。 【個人技テスト】直上アンダーパスと直上オーバーパスを3分間でボールを落とさず何回出来るか数える。 【ドリル】アンダーパス30回、オーバーパス30回、コンビ30回、片方が打ち、もう片方がレシーブして打ち手がキャッチ10回 【チームドリル】4対4に分かれランニングパス、円陣パス、4対4でのミニラリーゲーム	
第 3 学 期	1	● 球技(バレーボール) ● スパイクステップ ● スパイク ● サーブ	○ネットを張る。安全に留意し協力して準備するよう心掛ける。 <スパイク> ステップ練習では2歩助走で練習する。ボールを頭上でキャッチ→両手首を使って逆コートに返球→片手で返球する→ミートして返球 <サーブ> アンダーハンド・サイドハンド・フロッターサーブの順に練習する	
	2		【ネットプレーテスト】 ○手投げのボールを5球スパイクを打つ。ステップの正確性と、返球したボールの回転を評価する。 ○10球サーブを打ち、何球相手コートに入るか数える。サーブの種類は何でもよい。 【チーム練習】 ○ソフトバレーコートを作り、4対4のゲームを行う。 ○6対6のゲームを行う	
	3	● 球技(バレーボール) ● ゲーム ● 体育理論	○5体カトレーニング 6運動やスポーツでの危険予知と安全確保 について理解する	

教科名 **保健体育** 科目名 **保 健** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書(発行所) **新高等保健体育(大修館)**

副教材(発行所)

学習目標	心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。	
観 点 別 評 価	知識・技能	生涯を通じた健康や体育・スポーツの基礎となる考え方を理解しているかどうかをICTを活用した小テストや、授業中のワークシートへの取り組みで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた保健体育の知識や技能を実践できているか、自分の考えを説明(表現)することができるかをグループワークやICTを活用して評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、保健体育の正しい知識に基づき判断しようとして、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用して評価する。
留意事項	日頃より保健分野で扱う項目に対し興味・関心を持ち、ニュース・新聞記事等に目を向けること。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考えと成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 日本における健康課題の変遷 日本における疾病構造の変化とその要因 健康に関する考え方 ヘルスプロモーションの考え方 健康の成り立ちに関わる様々な要因 健康を守り、育てる環境 	
	5	4 健康に関する意思決定・行動洗濯 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定・行動選択と健康との関係 時代や地域で変化する感染症 感染症予防の三原則 性感染症、エイズとは 生活習慣病とは よりよい意思決定・行動選択の方法 現在、特に問題となっている感染症 現代の感染症発症予防とまん延防止のための対策 性感染症、エイズを予防するための対策 生活習慣病の予防と回復のための取り組み 	
	6	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康	<ul style="list-style-type: none"> 身体活動、運動と健康の関係 食事と健康の密接な関係 休養、睡眠と健康の関係 がんの予防と治療 喫煙による健康影響 身体活動、運動の実践と社会環境の整備 健康的な食生活の実践と社会環境の整備 健康づくりのための休養・睡眠の確保 がんに関する社会的な取り組み 喫煙を開始する様々な要因と依存症 	
	7	14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	<ul style="list-style-type: none"> たばこ問題への対策 飲酒を開始する様々な要因と依存症 精神疾患とはどのようなものか 心の不調の早期発見とセルフケア 心の健康社会の実現を目指して 飲酒による健康影響や社会問題 不適切な飲酒を防止するための対策 主な精神疾患とその特徴 自分だけで悩まず助けを求めることの大切さ 	
第 2 学 期	9	2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成	<ul style="list-style-type: none"> 事故とその被害 交通事故防止のための取り組み 自他の安全を確保する行動 事故の発生に関連する要因 交通事故を起こした場合の責任と補償 安全を確保する社会の取り組み 	
	10	4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当 3単元 生涯を通じる健康 1 思春期と健康	<ul style="list-style-type: none"> 応急手当の意義 心肺蘇生法の意義 日常的な応急手当 思春期における体の変化と性機能の成熟 救急医療体制の仕組み 心肺蘇生法行い方 熱中症の予防と応急手当 思春期における体の変化と健康課題 	
	11	2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康	<ul style="list-style-type: none"> 性意識の変化と異性の尊重 結婚、婚姻状況と健康 受精、妊娠、出産 家族計画の意義 加齢による心身の変化 性に関する情報と性行動の選択 夫婦関係、親子間家と健康 母子の健康のために 避妊法の選択と人工妊娠中絶 中高年期を健やかに過ごすために 	
	12	7 高齢社会に対応した取り組み 8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者を取り巻く状況 働くこと(労働)の意義と働き方の変化 日本における労働災害の推移 職場における健康の保持、増進活動 高齢者を支える社会の取り組み 働く人における健康問題の現状 労働災害を防止するための仕組み 日常生活における健康の保持、増進活動 	
第 3 学 期	1	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対策 4 環境衛生に関わる活動	<ul style="list-style-type: none"> 大気汚染による健康への影響 水質汚濁による健康への影響 環境汚染の防止とその対策 安全な飲み水の供給と汚水の処理 地球規模の大気環境問題 土壌汚染による健康への影響 産業廃棄物の問題と新たな環境汚染の課題 生活環境守るごみ処理 	
	2	5 食品の安全性と健康 6 食品の安全性を確保する取り組み 7 保健制度とその活用 8 医療制度とその活用 9 医薬品の制度とその活用	<ul style="list-style-type: none"> 食品の安全性と課題 食品の安全性を確保する行政、生産、製造者の役割 生涯を通じて病気から人々の健康を守る保健行政 健康の保持、増進のために活用できる保健サービス 医薬品の種類と承認制度 食品の安全性の確保 医療制度と医療保険 医療機関の役割と適切な活用 医薬品の使い方 	
	3	10 様々な保健活動や対策 11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の健康課題を解決する取り組み すべての政策や取り組みに「健康」の視点を 様々な機関・組織の活動 多様な人や組織が参加して進める環境づくり 	

教科名 **外国語**

科目名 **英語コミュニケーション II**

必修

科別 **商業** 科

学年 **2** 年

コース名 **プログレス** コース **4** 単位

教科書（発行所） **All Aboard! English Communication II（東京書籍）**

副教材（発行所） **総合英語FACTBOOK English Grammar Core New Edition（桐原書店） / 総合英語FACTBOOK English Grammar Core Workbook New Edition（桐原書店）**

学習目標	必要な情報を聞き取り、または読み取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。 基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持などを論理性に注意して話して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。	
観点別評価	知識・技能	各Lessonで学ぶ文法を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて相手とコミュニケーションできる技能を身につけているかを小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	各Lessonで書かれている文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、テーマについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや気持ち、情報などを話したり書いたりして伝え合っているかを小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや課題状況で評価する。
留意事項	単元別の小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。（小テストにはスピーキングテストも含む）観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	Lesson1 A Colorful Island プラーノ島	イタリアのプラーノ島への旅行を報告するSNSを通して、その島の特色について学習する。 関係代名詞: what	春季課題提出
	5	Lesson2 With the Beatles サムのリクエスト	曲をリクエストしたラジオ番組の聴取者とディスクジョッキーの対話を通して、世代を超えて人気のあるバンドについて学習する。 比較表現: more, the most	中間考査
	6	Lesson3 Wild Men ワイルドマンの世界	ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」についてのスピーチを通して、人間社会と氏巫鉛について考える。 it の用法	
	7	Lesson4 Little Hero ハチドリのおしずく	世界最小の取りであるハチドリを紹介する記事とハチドリの物語を通して、普段の努力と不屈の心について考える。 関係疑問文	期末考査
第2学期	9	Lesson5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	日本の伝統文化である歌舞伎と隈取について学習する。 to不定詞を含む表現	夏季課題提出
	10	Lesson6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	海外の高校生に向けた、伝統野菜についてのグループ発表を通して、伝統の継続について考える。 動詞の目的語になるif節	中間考査
	11	Lesson7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	世界中で壁画を描く活動についての話を通して、世界の人々と交流する方法について学習する。 関係副詞: where, when	
	12	Lesson8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	生物模倣についてのオンライン公園の授業を通して、自然界のデザインをヒントに開発された製品について学習する。 知覚動詞	期末考査
第3学期	1	Lesson9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	チョコレートをめぐる現実を取り上げた雑誌記事を通して、カカオ農園の実態と児童労働及びその解決策について学習する。 使役動詞	冬季課題提出
	2	Lesson10 Fighting Angel ナイチンゲール	医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯について学習する。 分詞構文	
	3	総復習	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う。	学年末考査

教科名 **外国語** 科目名 **英語演習** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所） **英語総合問題集Wonderland1.5 3rd Edition (いっずな書店)**

副教材（発行所）

学習目標	「Reading」・「Grammar&Writing」・「Various Questions」・「Listening」の4分野を中心に、しっかりとした基礎(土台)となる英語力を確実に養う。英語の感覚や英語で思考する習慣をつけられるようにする。	
観 点 別 評 価	知識・技能	各UNITで学ぶ文法を用いた文の形・意味・用法を理解し、それを用いて相手とコミュニケーションできる技能を身につけているかを小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	各UNITで書かれている文章について、文の構造を意識しながら英文を読んでいるか、重要単語、熟語、イディオム表現を熟知しているか、基本的な文法理解し、表現できるかを小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや課題状況で評価する。
留意事項	①文の構造を意識しながら、辞書を使用し独力で英文を読解できるようにする。 ②単語、熟語、イディオム表現を理解し、定着できるようにする。 ③テーマを通して様々なことに興味をもち、自分の考えを英語を用いて表現できるようにする。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	UNIT1 UNIT2	Reading[物語] Grammar&Writing[文型] Various Quetsion[Leaflet] Listening[情報のイメージ化] Reading[手法] Grammar&Writing[時制①] Various Quetsion[Information] Listening[状況把握]	春季課題提出
	5	UNIT3	Reading[環境] Grammar&Writing[時制②] Various Quetsion[Sayings] Listening[留守番電話]	中間考査
	6	UNIT4 UNIT5	Reading[人体] Grammar&Writing[時制③] Various Quetsion[Point Card] Listening[音のつながり] Reading[生物] Grammar&Writing[助動詞] Various Quetsion[Main Point] Listening[情報の聞き取り]	
	7	UNIT6	Reading[物語] Grammar&Writing[受動態] Various Quetsion[Recipe] Listening[情報の整理]	期末考査
	9	UNIT7 UNIT8	Reading[生活] Grammar&Writing[不定詞①] Various Quetsion[Social Media] Listening[電話のやりとり] Reading[文化] Grammar&Writing[不定詞②] Various Quetsion[Survey] Listening[生態・特徴の聞き取り]	夏季課題提出
	10	UNIT9	Reading[人物] Grammar&Writing[動名詞] Various Quetsion[Title] Listening[会話]	中間考査
第 2 学 期	11	UNIT10 UNIT11	Reading[物語] Grammar&Writing[不定詞と動名詞] Various Quetsion[Math] Listening[情報の聞き取り] Reading[生活(資料活用)] Grammar&Writing[分詞] Various Quetsion[Logic] Listening[会話の流れ]	
	12	UNIT12	Reading[生物] Grammar&Writing[比較] Various Quetsion[Paragraph] Listening[タクシーの手配]	期末考査
	1	UNIT13 UNIT14	Reading[文化] Grammar&Writing[関係代名詞] Various Quetsion[Idiom] Listening[天気予報] Reading[心理] Grammar&Writing[名詞] Various Quetsion[Map Symbol] Listening[コマーシャル]	冬季課題提出
第 3 学 期	2	UNIT15	Reading[発見] Grammar&Writing[接続詞] Various Quetsion[Cipher] Listening[情報の推測]	
	3	総復習	1年間で学んだ表現や文法の復習を行う。	学年末考査

教科名 **家庭科** 科目名 **家庭基礎** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所） **大修館書店「家基709」「Creative Living【家庭基礎】で生活を作ろう」**

副教材（発行所） **第一学習社 生活ハンドブック**

学習目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得させ、家庭や地域での生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	
観点別評価	知識・技能	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。
	思考・判断・表現	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見出し、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、表現を工夫するなど、生活を創造する能力を身につけている。
	主体的に学習に取り組む態度	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。
留意事項	小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況のみをみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第8章 経済生活のマネジメント 1 生活を営むためのお金 2 経済の仕組みを知ろう 3 お金と上手に付き合う術 4 18歳で変わる消費生活	1 経済的な自立 2 家計の構造と社会 3 経済計画とリスク管理 4 消費と契約	
	5	5 進むキャッシュレス社会 6 「お金を借りる」ということ 7 消費者トラブルの今 8 消費者の自立を支援する	5 購入方法・支払方法の多様化 6 消費者信用の利用と管理 7 多様化する消費者問題 8 消費者保護の法律としくみ	中間考査
	6	9 情報社会を生きる 10 私たちが社会を動かす 第9章 食生活のマネジメント 1 体と心を満たす食事 2 イエローカードかも？	9 情報の収集と整理 10 消費者の権利と責任 1 食事の役割 2 食生活を見直す	
	7	3 日本の食文化「WASHOKU」 4 栄養バランスの良い食事	3 日本と世界の食文化 4 栄養素の量と食事の量	期末考査
第2学期	9	5 炭水化物を摂る 6 脂質を摂る	5 炭水化物の働きと食品の調理性 6 脂質の働きと食品の調理性	
	10	7 たんぱく質を摂る 8 無機質を摂る	7 たんぱく質の働きと食品の調理性 8 無機質の働きと食品の調理性	金融教育講義 調理実習
	11	9 ビタミンを摂る 10 豊かな食卓に 11 食品のプロフィールを知る 12 食品を安全に取り扱う	9 ビタミンの働きと食品の調理性 10 調味料・香辛料・嗜好品・加工食品 11 食品の選択と購入 12 食品の保存と衛生士	調理実習
	12	13 持続可能な食生活 14 みんなでおいしい食事を	13 環境と食生活 14 献立に立て方	期末考査
第3学期	1	第3章 家族・家庭生活のマネジメント 1 家族って何だろう 2 分かってくれて当然 3 生活マネジメントの拠点	1 家族の定義と家族構成の変化 2 家族の人間関係と家族間の問題 3 家庭の機能と労働	
	2	4 法律から見る家族・家庭 5 ダイバーシティの実現を目指す	4 家族・家庭の法律 5 家族・家庭と社会	
	3	テスト返却と復習まとめ	テスト返却 復習・まとめ	学年末考査

教科名 **商業** 科目名 **財務会計 I** **必修**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **4** 単位

教科書(発行所) **新財務会計 I (実教出版)**

副教材(発行所) **最新段階式 簿記検定問題集 新課程版 全商1級会計・2級 令和5年度 簿記実務検定全商1級会計 全経簿記検定試験PAST2級**

学習目標	会社法による株式会社の仕組みを理解し、中規模から大規模の株式会社の経理担当者として複式簿記の仕組みを理解させる。 全経簿記能力検定2級(7月)及び全商簿記実務検定1級会計(1月)の合格できる実務を身に付ける。	
観点別評価	知識・技能	全経簿記検定2級、全商簿記実務検定1級会計、小テスト
	思考・判断・表現	課題、宿題および授業時の発言
	主体的に学習に取り組む態度	年間を通しての出欠状況と授業態度
留意事項	定期考査は期末考査(1・2学期)・学年末考査(3学期)の3回実施予定	

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	取引の記帳(1)(2)	(1)現金・預金 (2)仕入・売上 (3)仕入帳と売上帳 (4)商品有高帳 (5)受取手形・支払手形 (6)香型貸付金・手形借入金 (7)手形の書換 (8)不渡手形 (9)営業外受取手形・営業外支払手形	
	5	決算整理 決算のまとめ 本支の会計	(1)現金過不足 (2)当座借越 (3)収益・費用の見越し・繰り延べ (4)有価証券の評価 (5)減価償却 (6)精算表 (7)損益計算書・貸借対照表作成 (8)本支店間の取引 (9)支店相互の取引	
	6	伝票 株式会社の記帳 全経対策	(1)3伝票の集計と転記 (2)株式会社の設立・開業・株式の発行 (3)剰余金の処分 (4)株式会社の税金 ※全経対策 ①仕訳 ②計算 ③商品有高帳(移動平均法) ④伝票作成と仕訳集計表 ⑤精算表	
	7	検定対策	※全経対策 ①仕訳 ②計算 ③商品有高帳(移動平均法) ④伝票作成と仕訳集計表 ⑤精算表	期末考査/全経2級
第2学期	9	資産・負債・純資産	①流動資産 ②有形固定資産 ③無形固定資産 ④投資その他の資産⑤流動負債 ⑥固定負債 ⑦引当金 ⑧資本剰余金 ⑨利益剰余金 ⑩自己株式・新株予約権	
	10	損益計算	①営業損益の計算 ②本支店会計の内部利益 ③経常損益の計算 ④当期純利益の計算	
	11	財務諸表の作成	①貸借対照表の作成 ②損益計算書の作成	
	12	検定対策	全商検定模擬問題	期末考査/全経2級
第3学期	1	検定対策	全商検定模擬問題	全商1級会計
	2	検定対策	全商検定模擬問題	
	3	まとめ	全商検定模擬問題	学年末考査

教科名 **商業** 科目名 **原 価 計 算** **必修**

科 別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **3** 単位

教科書（発行所） **原価計算(実教出版)**

副教材（発行所） **最新段階式 簿記検定問題集 新課程版 全商1級 原価計算/令和5年度版 簿記実務検定 全商1級原価計算**

学 習 目 標	全商簿記実務検定1級原価計算(1月)
観 点 別 評 価	知識・技能 全商簿記実務検定1級原価計算(1月)、小テスト
	思考・判断・表現 課題、宿題および授業時の発言
	主体的に学習に取り組む態度 年間を通しての出欠状況と授業態度
留 意 事 項	定期考査は期末考査(1・2学期)・学年末考査(3学期)の3回実施予定

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	原価の費目別計算	①材料費の計算と記帳 ②労務費の計算と記帳 ③経費の計算と記帳	
	5	個別原価計算	①原価計算表 ②原価元帳と製造勘定 ③製造間接費の配賦方法 ④製造間接費の予算配賦と記帳 ⑤製造間接費の差異分析 ⑥仕損品・作業くずの処理	
	6	部門別個別原価計算 総合原価計算	①部門別原価計算 ②製造部門費の予定配賦 ③月末仕掛品原価の計算 ④単純総合原価計算	
	7	総合原価計算	①等級別総合原価計算 ②組別総合原価計算	期末考査
第 2 学 期	9	工程別総合原価計算	①工程別総合原価計算 ②総合原価計算における減損・仕損じの処理 ③副産物・作業くずの処理	
	10	製品の完成と販売 決算 本社・工場間の取引	①製品の完成と販売 ②決算の手続き ③財務諸表の作成 ④本社・工場間の取引	
	11	標準原価計算と直接原価計算 模擬問題	①標準原価計算 ②直接原価計算 ③全商模擬問題	
	12	全商模擬問題	全商模擬問題	期末考査
第 3 学 期	1	全商模擬問題	全商模擬問題	全商1級
	2	全商模擬問題	全商模擬問題	
	3	全商模擬問題	全商模擬問題	学年末考査

教科名 **商業** 科目名 **情報処理** **必修選択**

科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書(発行所) **情報処理 Prologue of Computer(実教出版)**

副教材(発行所) **全商情報処理検定模擬試験問題集2級(実教出版)、全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級(実教出版)**

学習目標	(1) 情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得する。 (2) 全商情報処理検定2級に関する知識とスキルを身に付け、合格を目指す。 (3) Wordのスキルを身に付け、全商ビジネス文書実務検定の上位級を取得する。
観点	情報についての知識、Excel・Wordにおける技能等について理解できているか、校内検定、全国検定(全商情報処理検定2級)等で評価する。
別	身に付けた情報処理に関する知識や技能を効率よく活用し、校内、全国検定に取り組むことが出来たのか、校内検定、全国検定および確認テスト等で評価する。
評価	主体的に学習に取り組む態度 自ら積極的に校内、全国検定合格へ向けて取り組むことが出来たのか、学習への振り返りや課題等を通して評価する。
留意事項	校内検定の実施については、内容等、教科担当者から連絡する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	第3章 情報の集計と分析 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	基本的な関数(VLOOKUP,HLOOKUP等) 応用的なグラフの作成と活用	
	5	全商情報処理検定模擬試験問題集2級 筆記編	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識 通信ネットワークに関する知識 情報モラルとセキュリティに関する知識	
	6	全商情報処理検定模擬試験問題集2級 筆記編	表計算ソフトウェアの活用 データベースソフトウェアの活用	
	7	全商情報処理検定模擬試験問題集2級 実技編 全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級 実技編	実技問題 実技問題を通して、2級実技に必要なスキルを身に付ける	校内検定 全商ビジネス文書 実務検定(速度部 門2級)
第2学期	9	全商情報処理検定模擬試験問題集2級 模擬試験問題(筆記・実技)	2級模擬試験(筆記・実技) 模擬試験を通して、2級合格に必要な知識とスキルを身に付ける	全商情報処理検 定(2級)
	10	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級 実技編・筆記編	2級模擬試験(筆記・実技) 模擬試験を通して、2級合格に必要な知識とスキルを身に付ける	
	11	全商ビジネス文書実務検定模擬試験問題集2級 実技編・筆記編	2級模擬試験(筆記・実技) 模擬試験を通して、2級合格に必要な知識とスキルを身に付ける	全商ビジネス文書 実務検定(2級)
	12	全商情報処理検定模擬試験問題集2級 模擬試験問題(筆記・実技)	2級模擬試験(筆記・実技) 模擬試験を通して、2級合格に必要な知識とスキルを身に付ける	校内検定
第3学期	1	全商情報処理検定模擬試験問題集2級 模擬試験問題(筆記・実技)	2級模擬試験(筆記・実技) 模擬試験を通して、2級合格に必要な知識とスキルを身に付ける	全商情報処理検 定(2級)未取得者
	2	第3章 情報の集計と分析 4節 情報の整列・検索・抽出	データの整列 データの検索・抽出	
	3	1年間のまとめ	1年間で習った内容について確認し、次年度の上位級合格に向けて繋 ぎつけていく。	

教科名 **商 業** 科目名 **商 業 演 習** **必修選択**

科 別 **商 業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位

教科書（発行所）

副教材（発行所） **商業経済検定テキストマーケティング(実教出版) 電卓計算直前模試(英光社)**

学 習 目 標	全国商業高等学校協会主催商業経済検定マーケティングの取得及び、全国経理教育協会主催電卓計算能力検定2級の取得と校内検定の取得	
観 点 別 評 価	知識・技能	マーケティングに関する知識と電卓計算能力検定2級程度の知識を習得する。
	思考・判断・表現	マーケティングや電卓計算能力検定2級知識を用いた上で、どのように周りに説明をし理解させられるのか評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら全国検定や校内検定に向けて学習ができていくかどうか、また、真摯に取り組んでいるか判断する。
留 意 事 項	商業経済検定は2年次取得を目指すマーケティングと3年次取得を目指すビジネス経済Aの両科目取得により、1級取得となるので生徒への注意を促す。	

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	
	5		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	
	6		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	校内検定(電卓)
	7		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	電卓計算能力検定
第 2 学 期	9		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	
	10		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	電卓計算能力検定
	11		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	校内検定(商業経済マーケティング)
	12		商業経済検定マーケティング 及び 電卓計算直前模試2級 を用いた学習	電卓計算能力検定
第 3 学 期	1			
	2			商業経済検定 マーケティング
	3			

教科名 **商業** 科目名 **英語実務**
 科別 **商業** 科 学年 **2** 年 コース名 **プログレス** コース **2** 単位
 教科書（発行所） **英語検定テキスト(実教出版)**
 副教材（発行所） **英単語ターゲット1400(旺文社) 英熟語ターゲット1000(旺文社)**

学習目標	全国商業高等学校協会主催英語検定の取得及び校内検定の取得	
観点別評価	知識・技能	問題集や過去問題で学ぶ文法を用いた文の形・意味・用法を理解し、身につけているかを小テストや価する。
	思考・判断・表現	問題集や過去問題で書かれている文章について、文の構造を意識しながら英文を読んでいるか、重要ディオム表現を熟知しているか、基本的な文法理解し、表現できるかを小テストや定期考査等で評価
	主体的に学習に取り組む態度	授業中の言語活動への積極的な取り組みや課題状況、自ら主体的に資格取得に向けて取り組んでいくに判断し評価する。
留意事項	校内検定の実施については、内容等、教科担当者から連絡する。	

学期	月	学習単元	学習内容
第1学期	4		英語試験問題集を用いての学習
	5		英語試験問題集を用いての学習
	6		英語試験問題集を用いての学習
	7		英語試験問題集を用いての学習
第2学期	9		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習
	10		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習
	11		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習
	12		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習
第3学期	1		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習

3 学 期	2		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習
	3		英語検定問題集及び模擬問題を用いての学習

必修選択

--

--

定期考査等で評

.....
要単語、熟語、イ
する。

.....
るのかを客観的

備考

校内検定
英語検定

英語検定

校内検定